



# 兵庫県写真連盟

〒650-0035 神戸市中央区浪花町60 朝日新聞神戸総局内 TEL078-331-4144

<http://www14.plala.or.jp/AJAPS/>

今年度も、諸行事にご協力を…、そしてコンテストへのご応募も…!

全日本写真連盟 兵庫県本部委員長 田中 賢

昨年度の県本部行事は、会員の皆様のご協力によりまして順調に進捗しました。特に撮影会には多くの方にご参加いただきましたこと、深く感謝申し上げます。今年度も楽しい撮影会を計画しておりますので、多数のご参加をお待ちしております。

昨年度を振り返りますと、撮影会参加者の中で、コンテストに応募された方の割合が平均 50%程度しかありません。コンテストは勉強の場でもありますので、今年度は、多数の方のご応募をお待ちしております。そして来年2月の入賞作品展で皆様にお会いできますことを委員全員楽しみにしております。奮ってご応募ください。

## <2017年度県本部行事予定(2017年4月~2018年3月)>

行事名		実施日・締切	内 容
写真教室	朝日初心者教室 (阪神)	4月16日、23日 5月7日、14日	講義2回 会場:宝塚国際文化センター 13:30~16:30 実習2回 神戸王子動物園など 会費 8,000円
	朝日初心者教室 (神戸)	4月16日、23日 5月14日、21日	講義3回 会場:朝日新聞神戸総局10階 13:30~16:30 実習2回 神戸動物園など 会費 8,000円
	朝日初心者教室 (姫路)	4月9日、16日、23日 30日	講義3回 会場:姫路市民会館 13:30~16:30 実習1回 姫路市立動物園 会費 8,000円
撮影会	パートI撮影会 (コンテスト募集)	4月8日(土)	美濃の花みこし(岐阜県美濃市) 募集人員120名 参加費 7,500円
	パートII撮影会 (コンテスト募集)	9月24日(日)	五個狂町時代絵巻行列(滋賀県東近江市) 募集人員120名 参加費 6,500円
	パートIII撮影会 (コンテスト募集)	2018年3月11日(日)	近江八幡左義長(滋賀県近江八幡市) 募集人員120名 参加費 6,500円
	阪神地区撮影会 (コンテスト募集)	11月23日(木)	鶏足寺の紅葉と湖北の夕景(滋賀県木之本市・長浜市) 募集人員40名 参加費 7,000円
	神戸地区撮影会 (コンテスト募集)	6月18日(日)	舞鶴紫陽花と赤レンガの街(京都府舞鶴市) 募集人員40名 参加費 6,500円
	姫路地区撮影会 (コンテスト募集)	10月15日(日)	新見の土下座祭り(岡山県新見市) 募集人員40名 参加費 6,500円
コンテスト	県本部展	8月31日締切	・自由作品 単写真 カラー・モノクロ A4又は四つ切 ・応募資格:全日写連会員 ・応募料:1,000円(郵便小為替) ・応募先 朝日新聞神戸総局 ※1 応募資格 2015年度以降に入会の新会員 ※2 インクジェットプリンター出力作品に限る
	新入会員 ※1	9月30日締切	
	自家プリント ※2	10月31日締切	
	課題「電車のある風景」	2018年1月31日締切	
展覧会	県本部入賞作品展 県本部委員作品展	2018年2月20日(火)~ 25日(日) 10:00~17:00 (初 13:00~)(終~15:00)	県本部各種コンテスト入賞作品 約250点展示 兵庫県本部委員の作品 A3~全紙 約26点展示 会場:兵庫県民アートギャラリー
	姫路地区委員展	9月26日(火)~10月1日(日) 10:00~17:00(初 13時~)	姫路地区の委員の作品 1人A3~全紙を3~5点展示 会場:イーグル姫路市民ギャラリー
県本部ニュース発行(2回)		5月1日、10月1日付発行	「フォトアサヒ」5月号、10月号に同封する

7名  
11名  
6名

※各行事についての詳細は、各支部長を通じてお知らせします。また、朝日新聞兵庫県版にも掲載されます。

## <2017年度役員・委員紹介>

- 兵庫県本部長 小林杉男  
兵庫県本部委員長 田中 賢(姫路)  
兵庫県本部副委員長 田中泰平(阪神)、坂本正子(神戸)  
兵庫県本部事務局長 坂本正子(神戸) <副委員長兼任>  
兵庫県本部委員 <阪神地区>天野元春、池本泰博、入谷康一、おおいし和子、中村峰雄  
夏目幹也、満武弘子  
<神戸地区>垣村早苗、川口和子、谷村周慈、牧野慎三、森田 尚、山岡成男  
<姫路地区>池田和子、大村正文、武本富重、田寺かよ子、萩原正良  
本多昭二、松下敏和、山本雅也



## <作品展の紹介>

- ☆ フォト宝塚写真展 5月11日(木) ~ 16日(火) 宝塚市立国際文化センター内ギャラリー  
☆ フォト 88 姫路支部展 5月16日(火) ~ 21日(日) イーグレひめじ市民ギャラリー  
☆ シャとる支部展 6月8日(木) ~ 13日(火) チュオぎやらり  
☆ フォトアングル写真展 6月14日(水) ~ 18日(日) 西宮市立アブリ甲東園4Fギャラリー  
☆ 垣村早苗写真展「ゆる風の街~リスボン遊遊ルポ~」 7月14日(金) ~ 20日(木) 富士フィルムフォトサロン大阪  
☆ 影夢写真展 8月22日(火) ~ 27日(日) 西宮市立アブリ甲東園4Fギャラリー  
☆ 写団昼行燈支部展 9月5日(火) ~ 10日(日) イーグレひめじ市民ギャラリー  
☆ フォトチャンス写真展 9月13日(水) ~ 17日(日) 西宮市立アブリ甲東園4Fギャラリー  
☆ 姫路地区委員展 9月26日(火) ~ 10月1日(日) イーグレひめじ市民ギャラリー  
☆ フォトグループ阪神支部、フォトグループよもぎ支部合同展 9月26日(火) ~ 10月1日(日) 西宮北口ギャラリー



## <各県本部委員より>

8/25 原崎/CP

日ごろは担当支部の方を指導している県本部委員ですが、より多くの会員の方々に、他の委員のことも知ってもらうためのコーナーです。それぞれの委員の写真に対する思いが書いてあります。(順不同です)

- ☆ 天野 元春 私は平成2年初心者教室を受講し、第2期生として支部に入会しました。楽しい写真活動が始まり、先生や第1期生の方々の素晴らしい写真を拝見して「これは頑張って写真の勉強をしなくては追いつけない」と思いました。早速カメラ雑誌を購入、展覧会に行ったり、先輩方には何でも聞きました。撮影会、コンテストにも積極的に参加しました。撮影会に行くところまでどう撮ればよいかのヒントをつかめたり、コンテストは当落はともかく、自分の写真の良し悪しが明確になり、ステップアップにもなりました。



一年ぐらいいが過ぎた頃、京都・嵐山に猿の自然公園があることを知り、早速出掛けました。春は桜と椿、夏は水遊びをする猿、秋は紅葉、冬は雪、など被写体に困ることなく夢中でシャッターを切りました。平成19年3月に大阪梅田の丸ビルで個展「京の悟空達」を開催することができたのは楽しい思い出の一つです。

平成19年6月にクラブを結成し、支部の方々と楽しく撮影に出かけています。カメラを持参しないときでも、被写体を見つける練習をしていれば、どこでも写真を楽しむことができます。そして、絵画展、音楽会、舞台などを鑑賞して感性を養うことも大切だと思います。今もカメラ雑誌を読んで勉強中です。

- ☆ 池田 和子 今朝ふと新聞の天声人語で「自分が何がしたいか、何を得意としてきたかを考え、それを継続してやるのが一番」という文が目にとまりました。



私は普通に主婦・子育てをやってきて、50歳を前に新聞に掲載された「朝日初心者写真教室」の募集が目にとまりました。ただ「庭に咲く花をきれいに撮りたい」という思いだけだったのですが、絞り?シャッタースピード?・・・チンプンカンプンで終わってしまった教室の後に、流れに乗って支部に入部してしまいました。そして普通の主婦がカメラ片手に撮影会に出かけるようになってしまったのです。先輩たちのアドバイスなどで、思い通りの写真が撮れたときの嬉しさを味わい、やめられなくなりました。

写真は誰でも身近なものを見つめ、その中に自分の思いを写し止めるということを知りました。

今は写真を撮ることが楽しいです。いろんな発見があり、世界が広がります。そして私にとって社会との接点となっていると思うようになりました。子供たちは巣立ちましたが、やはり私は主婦としての役目が第一に、少

し主人に助けられながら、今日も出掛けます。

☆ 池本 泰博



カメラを片手に、被写体を探しに街歩きやぶらり旅に出るのも楽しみなものです。旅先のふとした景色を撮った写真がコンテストで大賞を取るかもしれません。

最近のデジタルカメラは画像加工を前提に撮影でき、簡便さはフィルムカメラ時代とは違った良さがあります。コンパクトカメラでもすこぶる性能が良く、機能は目を見張る進化を続けていて、手振れやピンボケなどの撮影基本に注意すれば撮れるでしょう。

デジタルカメラなのでWBや露出補正のブラケティング撮り、さらに縦・横位置も撮れば大量に写真を増殖させることとなります。撮影後の後処理は十分可能ですが、大変な労力を要する割には画像が荒れたり、カラーバランスが崩れたりして、無残な結果になることもあります。撮る時は、シャッターを押す前に、被写体の何を撮りたいのか、ファインダーの四隅まで気を配り、絞り優先等をカメラにしたため、心に強く念じ一押しすれば、今までとは違う写真が撮れるでしょう。

これからも「フォトアサヒ」等の記事で研究して、あなたの力作をコンテストに応募してください。「感動」する写真をお待ちしています。

☆ おおいし 和子



全日写連に入会した時期は、1995年1月17日「阪神・淡路大震災」の頃でした。カメラ提げて出かけることを躊躇したことを思い出します。震災写真を報道関係に提供できなく、記録が残せなかったことが無念です。世界中のボランティアが働き、復興したお陰で、志していた写真を始めることができました。

写連の撮影会には積極的に参加し、演出は映画のロケーションと重なり、新鮮なことばかりで好奇心一杯でした。ネイチャー、祭り、動物、モデル、花など四季折々の撮影会が楽しみでした。指導者は走るように動き、熱心到的確な判断で指導していただきましたことを思い出します。露出補正、演出、画面作り、被写体探し、ストロボの使い方、バックの処理、広角と望遠などのレンズの使い分け、色彩、光と影の大切さを学びました。

全国、地方のコンテストにも多数応募し、通知が届くのが心待ちでした。

デジカメの普及で手軽にシャッターが押せ、露出や手振れの心配も少なくなり、身近にプリントもできる時代になりました。会員の皆様、切磋琢磨しながら、写真を楽しみ、写友仲間との談義、健康維持、時にはライバルとなり、沢山のコンテストに応募しましょう。そして、全日写連の会員の増員で活気ある写真世界の輪を作りましょう。

☆ 大村 正文



どうしたらご来光が山頂で拝んだように撮れるのか？カメラを一眼レフに変えてもうまく撮れずにいた時、新聞で朝日初心者教室の記事を見つけ参加しました。それから今年で20年、今も悩みながらあちこちの街角、路地、人物、田舎の祭りなど手当たり次第に撮影しています。当時、教室での教えて今も覚えているのは「いい写真は撮る時に題が浮ぶ」という言葉ですが、そんな写真はなかなか撮れません。諸先輩方にいろいろ聞きましたが、「人よりシャッターを数多く押せ。いい写真や絵画などをたくさん見ろ」や、ある人は、「時間も含めて4次元を記録する唯一の芸術」と言われました。すべての写真は「その時、その場所」にいないと撮影できません。それからは気になる物はすべてその時に撮っておくことにしました。光線具合とか周りの状況で対象の見え方、捉え方が違ってきます。同じ場所でも、時間や季節を変えて何度も行くと、また違った写真が撮れることもあります。

ドキドキするような被写体を見つけ、気の置けない仲間たちと写真ライフを楽しみましょう。皆様が写真を楽しみ、写真を通じて楽しい仲間をつくれますように、微力ながら頑張っていきたいと思っています。

☆ 垣村 早苗



学生時代に写真と出会い半世紀。暗室作業、酢酸の匂いも今となっては遠い記憶となりました。

時代は変わり、今ではすべての技術が日進月歩、カメラも手にすれば簡単に撮れ、パソコン上で何だってできてしまう時代になりました。

しかし、基本として持ち続けたいのは、「真を写す」にできるだけ忠実でありたいこと。目の前の現実をどう被写体として捉えるか、小説や映画の意図する要素と、画家の描く陰影の要素も加味し、常に空気や風、聲を感じる作品創りを、一表現者として心がけています。とは言え、中々難しいものがあり、自分を追い込む日々が続きます。追い求めるものにはきりがなく、皆さんと

共に成長させていただけることに感謝しています。

ライフワークは、一人旅で撮る街や村、人々の生活を撮ること。表現は組写真にこだわっています。国内外の言葉やアクセスの悪さも、言うに言えないハプニングもなかなかの醍醐味で、探検者となり、できる限りは続けていきたいと思っています。カメラ片手に向こう見ずの青春は終われません。

☆ 田中 泰平



デジカメ時代になって 10 年、カメラもどんどん進化し、進化しているカメラだからこそ写せるという写真術を模索しています。デジタルでの良いところは ISO 感度を変えられることで、今では ISO6400 くらいは常用として使える時代です。それに、カメラの手振れ補正機能がずいぶん良くなり、カメラによっては 5 段分くらい効くようです。もう一つは、ホワイトバランスを自由に変えられることもあります。そしてまた、惜しみなくシャッターを切れること、これが一番ですかね。その他にもいろんな機能がついています。我々世代はパソコンに弱いですが、これも避けて通れない時代です。そしてプリント技術について、業者にプリントを依頼するにしても部分補正、トリミングなど、合成写真をつくらないまでも、良いデータを作ってプリント依頼する必要があります。加工は邪道だという方も一部ではおられるようですが、加工技術を知らないと、加工された写真とされていない写真を見分けることもできません。技術力を高めて、見る人に感心してもらえるような写真をつくりたいと思っています。

☆ 川口 和子



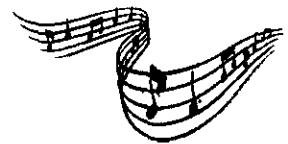
私は、1980 年 (37 年前) 全日本写真連盟兵庫県本部「初級写真教室」を卒業しました。今思えば「写真の写」も解らない自分でしたが、先生・諸先輩に写真の指導を仰ぎ、撮影会に連れて行って頂き、訳も分からず無我夢中で撮り続けてまいりました。そして今の自分があります。年月が白紙の自分に色を付けてくれました。コンテストに入ることに喜びを覚え、コンテストが次へのチャレンジになりました。私の好きな写真にモロッコで撮った「シャドー」があります。この一枚が私の「光と影を生かした写真」マイナス補正写真画面を生みました。その時は「何故？補正マイナスにするのか？」も解らないまま……。先生から「思い切りマイナス補正を」と言われ、言われたままにしました。マイナス 1.5~2.0 だったと思います。出来上がった作品が「目で見た作品とはまるで違うバックが真っ黒で芸術的な作品」に仕上がっていました。自分が撮った作品かな？と疑いました。写真は映像の 1 コマを 1 枚の静止面で表現しなくてはなりません。カメラをオート(自動)で無難に・平均的に撮るのではなくカメラ機能をこなし、失敗を恐れず大胆に撮る。むしろ失敗の中にこそ偶然性・瞬間性のある写真が生まれます。そこから新しい自分の写真が生まれます。「芸術性の高い 1 コマ」「写真ならではの 1 コマ」「感動を与えられる 1 コマ」を今後撮り続けていきたいと思っています。

☆ 山岡 成男



近年、足腰が少し弱ってきた感じがするせいか、階段を見上げて前に進むべきか被写体によっては後退妥協してしまうことがある。

撮るのに苦労した分だけ、良い作品が撮れると信じて、ひたすら歩いて被写体探しを若き頃は歩んできた写真道でしたが、今や兵庫県本部委員歴も最高歴となりました。写真は最高の喜びでもあり、生き甲斐でもあり、カメラを飾るまでには、まだまだ惜しい気持ちで毎日を過ごしておりますカメキチです。



☆ 武本 富重



写真を撮始めたのは、40 歳の時、キャノン A-1 というカメラを買ったのがきっかけです。キャノンサークルに入会して勉強を始め、その後、誘われて写連の会員になりました。そうした中で八木原茂樹先生と関本寿男先生という良き師と出会い、夢中で写真に取り組みました。それと同時期に日本写真教育協会の通信教育も受けました。

興味ある被写体は人間や人間社会で、人の匂いのするものなら何でも被写体です。その中でも特に惹かれるのは、ものの哀れを感じる被写体と、その反対のエネルギーを感じる被写体です。よく撮りに行ったのは「片上鉄道」、時間があれば撮りに行き、廃線になるまで通いました。次によく撮っているのは高知の「よさこい」、20 年近く撮っています。そしてもう一つ、小規模校ですが、子供たちの目が生き生きと輝いている「山里の小学校」、15 年通いましたが、この春ついに閉校になってしまいました。これに代わるフィールドを見つけなければ、と思っています。